

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成29年度分）

団体名：京田辺市

プロジェクト名	こどもが輝く京田辺プロジェクト		実施期間	平成29年度～平成30年度	テーマ	少子・高齢化	新規・継続の区分
地域における現状、課題及び住民ニーズ	<p>本市では、これまで、「子育てしやすいまち」を目指す施策を積極的に展開してきており、市立保育所・民間保育園の施設整備や保育内容の充実に努めてきた。近年では、市立幼稚園の預かり保育の充実などに取り組んだこともあり、全国的に少子化が課題となる中、本市においては子育て世代の転入が続いているが、これらは結果として保育所への入所希望者の急激な増加へと繋がり、本年4月には年度当初として初めて待機児童が発生することになった。</p> <p>引き続き、子ども・子育てを取り巻く環境が大きく変化中、多様化する教育・保育ニーズや今後予想される就園状況の推移、更には義務教育への円滑な接続などといった課題に対応していくことが求められている。</p> <p>同様に、児童数の増加の激しい小学校について、実情に合わせて増築、改修等を行う必要がある。</p>						
プロジェクトの目的及び概要	<p>子どもが輝く京田辺の実現を図り、京田辺の子どもを京田辺で育てていくため、市独自のカリキュラムによる質の高い幼児期の教育・保育を一体的に提供する体制の構築を進める。</p>						
	総事業費（千円）	1,745,435	本年度事業費（千円）	776,943	交付金額（千円）	44,764	
プロジェクトを構成する事業の平成29年度事業実績(出来高数値等)							
事業分類	事業名	事業種別	事業概要			主な実績（出来高数値等）	
市町村 実施事業	保育施設整備事業	交付対象事業	就学前児童数の大幅な増加が見込まれる南部地域における保育施設の整備に向け、用地取得等を行うもの。			・同志社山手地区において整備用地を取得するとともに、用地の造成工事を行った。	
	三山木小学校増築事業	交付対象事業	三山木小学校学区内における大規模住宅開発等により、将来見込まれる児童増に伴う教室不足を解消するため、用地買収し、校舎を増築する。			・外構工事の完了 ・屋外運動遊具の設置 ・既設仮設校舎解体撤去完了 ・仮設駐車場（借地）現状復旧完了	
	松井ヶ丘小学校給食室増築事業	交付対象事業	児童数の増加が著しい松井ヶ丘小学校の給食室について、増築及び機器増設を行うもの。			・給食室の増築を実施し、不足する調理機器の増設を行った。	
	子育てひろば地域支援事業（訪問相談支援拡充）	交付対象事業	育児不安を地域の身近なところで解消できるよう、地域子育て支援の拠点である「子育てひろば」に訪問支援事業を追加し、市中部から北部にかけての地域に根ざした子育てサポートを可能とするもの。			・「子育てひろば」に訪問支援事業を追加し、市中部から北部にかけての子育てサポートの充実に努めた。	
	5歳児接続カリキュラム作成事業	関連事業	小学校教諭、幼稚園教諭、保育所保育士などによる検討会議を設置して接続カリキュラムの作成に取り組むほか、本市の特色ある就学前教育体制を生かした実践方法について検討し、5歳児を対象とした小学校教育への接続カリキュラムを作成するもの。			・5歳児接続カリキュラムを作成した。（来年度導入）	

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成29年度分）

団体名：京田辺市

	放課後子ども総合プランプレ事業	関連事業	平成26年に国で策定された「放課後子ども総合プラン」に係る放課後対策として、自主学習の補助と体験活動を組み合わせたプログラムを実施し、児童の放課後のより一層の充実を図るもの。	・10月から12月までの3ヶ月、田辺東小学校において、水曜日の放課後に書道教室を実施した。	
成果指標①	成果指標の目標数値	保育定員数	H29.4.1 1,205人 → H31.4.1 1,556人	成果指標の実績値 (○年○月○日時点)	—
	成果指標の達成状況	○	(左の理由)	目標達成に向け、準備を進めている。	
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)
成果指標②	成果指標の目標数値			成果指標の実績値 (○年○月○日時点)	
	成果指標の達成状況		(左の理由)		
	成果指標の実績値が更新できない場合は、その理由及び更新時期		(理由)		(時期)
本年度の事業実績が成果指標の達成に与えた効果	・今後も就学前児童数が大幅に増加することが見込まれる市南部地域に幼保連携型認定こども園を民設民営方式で整備することで、キャパシティの不足を解消することができる。				
※未達成の場合も効果を記載すること	※未達成の場合は、成果指標の達成に向けた今後の対応方策についても記載すること。				
本プロジェクトに対する自己評価	関連事業との連携効果	・5歳児接続カリキュラムを導入することで就学前の教育・保育と小学校教育との円滑な接続が図られるほか、保幼小連携を実効的に進めることができ、市立幼稚園・保育所の更なる魅力向上に繋がった。			
	府と市町村等との連携に資する成果				
	住民の自治意識を高める成果				
	リーディング・モデル成果				
	広域的波及成果				

# みらい戦略一括交付金 プロジェクト自己評価調書（平成29年度分）

団体名：京田辺市

	行財政改革に資する成果	
	その他の成果	・ 放課後子ども総合プランに沿った事業の効果や実施に係る課題を検証し、児童の放課後の過ごし方の選択肢を増やすことができた。 ・ 大規模住宅開発等により将来児童増が見込まれる三山木小学校を増築することで教室不足を解消することができた。

## （記載要領）

- 1 プロジェクトごとに本様式を作成し、評価すること。
- 2 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 3 事業種別については、交付対象事業又は関連事業の別を記載すること。
- 4 成果指標の達成状況は、目標数値を上回ったときは◎、目標数値の近似値であるときは○、目標数値を下回ったときは△、判断できないときは—を記載すること。